

プロメテウスの罠

1469

土よ回

「削る除染」失うもの

2012年、福島県飯館村の菅野宗夫(64)「ふくしま再生の会」は自分たちで田んぼを除染して、コメを試験栽培した。

コメから上限を超える放射性セシウムは検出されなかった。だが、すべて廃棄させられた。

菅野らは自分たちの除染の有効性を村役場に報告し、方法の一つとして採用できる」と提案した。

再生の会理事長の田尾陽一(74)、東大大学院教授の溝口勝(56)も一緒だった。応じた村の復興対策課長(現・除染推進課長)の中川喜昭(57)と押し問答になった。

「今までの流れがある。そんな簡単に言われても困る」

飯館村は国が直轄で除染する。除染を担当する環境省が、村での除染を表土の削り取りでいくと決め、村

民に説明していた。

中川ら村の職員は、環境省と村民との調整に汗をかき、やっと一部で除染を始められるという時だった。

「国は広い面積を除染しなきゃならない。一つの方針でいかにい難しい」と中川は言う。

だが中川も国の役人の対応を歯がゆく感じる時があった。村民の要望を伝えても、担当者は「検討しませんでしたの」。



国による除染を終えた田んぼ。表土を削り取って客土してある

農林水産省は農地除染対策の技術書で①表土削り取り②水による土壌攪拌・除去③反転耕、④の三つの方法を取り上げている。

②は菅野らが試みた代かきと同じ要領で、⑤は上下の土を入れ替える方法だ。どの方法をとるか、土壌のセシウム濃度に応じ、関係者の意向を考慮して選ぶ、とある。

だが村内で実施されているのは、①の削り取りだけだ。線量が高い▽②では時間がかかる▽別々の対応も難しい、と環境省側は説明する。

加えて、反転耕や水による攪拌、

除去には村民から「汚染された土がすーっとそこに残ってんだべ? どういたすするかわかんねえ」と「全部持って行ってもらう」と、批判的な声が多くあがったという。

それだけ「不信や怒り」がこぼれだつた」と菅野は思う。

しかし、一律の削り取りだと、長年かけて豊かにした、農業に大切な土を失うリスクも大きい。もっと丁寧に行きたい。

菅野は帰村後を見据える。

「村に帰って何で食べてへんの?」

(菅野有希子)

プロメテウスの罠

1470

土よ回

先祖が残した杉林

プロメテウス人類に火を与えたギリシア神話の神族

国の除染が始まる前に、専門家をまじえたボランティアと一緒に、福島県飯館村の田んぼの除染に挑んだ菅野宗夫(64)。

当初は他の村民から「どうせデータは改ざんされて出されるんだべ」とはねつけられた。

それは「専門家」への不信感が広がっていた。「そんなこと、やらなくていい」とも言われた。

そんななか、宗夫と同じように、村で独自の除染実験にあたってきた農家に、菅野啓一(60)がいる。

居久根と言われる農家の除染に取り組んでいた。

啓一の自宅は村の南西部、比叡地区にある。

高さ20センチほどの杉林が家の背に立ち並ぶ。これが居久根だ。

「この杉はよ、先祖が次の世代に

いくらかでも役に立つようにつて送り送っている」

比叡地区は村内でも標高が高く、冷害が多かった。そういう時は、木をお金に換えれば食べていける。

家の建材にもなる。啓一も約30年前、今の家を建てるときに居久根の杉を自分で切って使った。

寒冷な気候のためか目が詰まっていて「秋田杉にも負けないくらい



住宅の裏手に広がる居久根

だど製材所で言われたこともある。居久根の木は切ったら種をまく。そうして維持してきた。

家は啓一で5代目。一人っ子で、

父を早くに亡くした。中学校を出てすぐ親世代の大人たちと地区の共同作業を担ってきた。稲作に和牛の繁殖、トルコキョウ栽培、冬は出稼ぎで土木工事をした時期もある。

2012年7月、宗夫から紹介された「ふくしま再生の会」の協力を得て、家の周りの線量を測った。

地上1.5メートルの高さで、玄関前は毎時2.7マイクロシーベルトだったのに、家の裏側は9.0には上がった。屋内も、玄関横の居間が1.8で、2階の廊下は2.8だった。

コケがっついていた屋根瓦を高圧洗

浄し、放射能がたまりやすい雨どりの土を取り除いた。

居久根の杉の枝打ちをし、落ち葉を取り除いた。だが思うように線量が下がらない。さらに枝打ちする高さを上げ、居久根の中の土もジョウロカーで約10センチ削った。

家の裏は2.0にまで下がった。「線量下げる努力していかないと何やってんだ」とって祖先に言われたと思う。子孫にも「誰の時だった」と。せつねえべし。やっぱり、挑戦だと思っただい」

(菅野有希子)

プロメテウスの罠

1471

土よ回

自宅の年間被曝量は

プロメテウス人類に火を与えたギリシア神話の神族

居久根。福島県飯館村の農家が代々、維持してきた屋敷林だ。

その、農家にとっての財産が、放射線量を高止まりさせる原因になっていた。

環境省による居久根の除染は当初、手が届く高さの枝打ちで、落ち葉も枝を取り除くだけだった。

「線量が高い所も、低い所も、同じやり方でいいのか」

飯館村で菅野宗夫(64)とともにボランティアの協力を得て、独自の除染に取り組んでいた菅野啓一(61)はずっと疑問に思ってきた。

今年9月、自宅東側の杉林で線量を測った。環境省が除染した場所だったが毎時0.9マイクロシーベルトあった。

「ここは南東方向に開けた田畑に面している。福島第一原発の事故後、原発方向から流れてきた放射能雲が

まともにあつた」と啓一は考える。

飯館村は2012年、次の三つの避難指示区域に分けられた。

- ▽避難指示解除準備区域
- ▽居住制限区域
- ▽帰還困難区域

ひとつの村でも、放射線量がそれだけ異なる。そこに居久根という要素も加わる。

啓一の自宅がある比叡地区は「居



菅野啓一さん

住制限区域に入り、11月4日時点で、宅地の空間線量は1時間あたり0.85マイクロシーベルトだった。

居久根からの放射線を心配する声

は多く、環境省は村の要望を受け、住居から10分の範囲内に限って木を伐採することにした。

さらに啓一は地区の仲間と、居久根の土を削る独自の除染実験の結果をもとに、そうした対応も、環境省に要望。居久根の土削りも試験的に行われる方向だ。

政府は帰還困難区域一以外は17年3月までに避難指示を解除することを目指している。

一方、追加被曝線量の長期目標は年1マイクロシーベルトとしている。

啓一はこの秋、実際に村の自宅へ生活した場合、被曝量がどれくらいになるか、ボランティアと調べた。

室内や居久根、庭など11カ所について、そこに24時間いたとして、それぞれの1年あたりの数値(単位:ミリシーベルト)を出してみた。

居間2.72▽2階3.55▽自宅前の庭5.86▽除染後の居久根13.08。最高は自宅東側にある氏神の祠付近で、国の除染が終わっているが20.12あった。

「年1マイクロシーベルト」は遠い。「このデータが一番必要なんだ」

(菅野有希子)